

# 平成30年度 会派調査研究報告書

(視察先1か所につき1枚)

会派名	蕪政クラブ
出席者	西野 賢一 小沢 栄一 金井 洋介
事業名	相手意識に立つものづくり教育
事業区分	①研究研修 ②調査

## 1. 蕪崎市での課題と研修・調査の目的

様々な考え方、生き方が受け入れられつつある現代において、相手を認めること、相手との協調性が求められている。  
この相手意識に立つ考え方を、諏訪圏の特色である「ものづくり」をとおして学校現場で展開している取り組みを学ぶ。

## 2. 実施概要

実施日時	平成 31年 2月 7日 (木) 10:00 ~ 12:00
視察先	長野県諏訪市
担当部局	諏訪市教育委員会
報告内容	<p>●諏訪市全小中学校で実施されている「相手意識に立つものづくり科」について 地域密着型ものづくり講座を平成15年に開始し、キャリア教育としての「ものづくり教育」に取り組み始めた。その取り組みをベースに、平成20年度内閣府承認の教育特区として正式な教科である「相手意識に立つものづくり科」を市内全小中学校で導入。平成21年度からは文部科学省教育課程特例校指定研究として引き続き取り組み現在に至る。 平成25年には、学校関係者と地域・社会や産業界の関係者等が連携・協働してキャリア教育に取り組んでいる先進事例として「キャリア教育推進連携表彰」を授与。諏訪市教育委員会は、地場産業の強みを生かしながら、体験活動を中心に学校と産業界とが連携した地域密着型のキャリア教育を展開している好事例として、全国で唯一の最優秀賞に選ばれた。</p>

## 1. 運営状況

### ●目的

製造業を中心に発達してきた諏訪市で子どもたちが「ものづくり」への興味関心を高め、基本的な技術を習得するとともに、思いやりの心を育て地域を理解し、郷土を愛する気持ちを身につけていくこと。

### ●経過

平成15年に地域密着型ものづくり講座を始め、ものづくり教育がスタート。平成16年に地元の企業と教育現場（学校）と行政で「ものづくり推進協議会」を立ち上げ、三者が連携を図りながら協力して小中学校の「ものづくり教育」を推進。平成20年より「相手意識に立つものづくり科」の学習(年25時間)が開始した。

### ●重点

- ・重点をはっきりさせた授業づくりを
- ・「二度づくり」で技術の向上を
- ・「構想を練る」段階の指導を大切に
- ・効果的な合科の学習を
- ・教材開発に努め、様々な発想や工夫を生かせる題材を

## 2. 考察（これらの取り組みを韮崎市にどう活かせるか）

諏訪市の特色である「ものづくり」を教科として「相手意識に立つものづくり科」を市内全小中学校で導入している。行政、学校、企業、家庭、地域が協力連携し合いながら「常に使い手の立場に立ったものづくり」の精神を大事にし、相手の立場を考え要望に応えるものづくり学習によって、思いやりの心や地域を理解し郷土を愛する気持ちを育んでいる。

相手意識に立ったものづくりの積極的な実践、ユニバーサルデザインへの認識、相手の立場に立って製作することを通して他者を温かく思いやれる児童生徒の育成を目指す諏訪市の考え方や視点は、共生社会において重要なことであり、この事業を参考にキャリア教育の一つとして活用できると考える。

また、韮崎市には工業高校があるので、商店街にベンチが少ない等、共同でまちの課題に対応する取り組みを通じて発想・企画・構想力、コミュニケーション力、表現力などの育成も可能と考える。

さらに今後は、商工会の「オープンファクトリー事業」という新事業が動き出したので諏訪市の取り組みを伝え、サポーターや地域企業等の積極的な活用、授業への支援参加、協力企業での現場体験へと展開し、子ども達のみならず市内製造業の将来を想像した展開を目指す。

感想（まとめ）  
・市政に活かせること